

決めつけが生む出す差別とは～カラスの縁起が裏に隠れる

あるべきもの 地名漫歩

歴史の変遷と地名

300

皆さん、皆さん、毎日、生活をしたいと思います。

していぐ中で、「人権」って大事だと思いますか？

このように質問したとすると、多くの人が、いや、すべての人「大事です」と答えられるのではないかでしょうか。では、次に「差別」をどう思いますか？

と問い合わせてみましょう。やはり多くの人が「許せない」「なくさなければならぬ」と答えられることでしょ。

全に、心豊かに生活したいと、願っていると思いますし、そのためには、一人一人の人権が大切にされる、差別のない社会を創つていかなければならぬことも、みんなわかっているはずです。

しかし、残念ながら、筆者を含め、皆さん周りには、まだまだ多くの、なくしていかなければならぬ「差別」があります。

そして、そのような「差別」を生み出している背景には、これまで、知らず知らずのうちに、私たちの意識の中に入ってきた「決めつけ」や「予断や偏見」といったものが、必ずといっていいほどあるのです。

今月は、「私自身が経験した、そんな出来事を、聞いていただき

たいと思います。

それは、私が、まだ幼かつた

時のことです。

8月の真っ青な空と、キラキラと照りつける太陽のもと、小川が流れる田園の中を、麦わら帽子をかぶつて、祖母と散歩をしていました。

とても気持ちの良い風を、頬にうけながら歩いていると、なにやら「カー！ カー！」とうるさい鳴き声が聞こえてきました。見上げると、電線に10羽から20羽のカラスが、とまつて鳴いているのです。

私は、じつで知ったのか、定かではないのですが、自慢げに祖母に、このように話をしました。

「おばーちゃん、知つとんね。カラスはね、縁起の悪が鳥ばい。こわかとばい。」

すると、祖母は、今までつなげていた手を、もつと優しく握り、私の目線に合うようじやがみ込むと

「あのね、たしかに、いたずらする悪いカラスもいるでしょう。でもね、本当はカラスは、子どもを大切にする優しい鳥な

よ。といいながら「七つの子」を歌つてくれました。

カラスという鳥を、縁起が悪い存在であると決めつけている。私の心の中の何かが、暖かく変わっていくのを感じました。背中で聞く、カラスの鳴き声が、優しく響いていたことを記憶しています。

このことは、人と人との関係にも、当てはめることができます。私は、「差別」をなくしていくために、自分に何ができるのか？ そう問い合わせるとき、この出来事を思い出します。

「あのは、自分とは合わない、ちがう」と決めつけることなく、自分の大切さとともに、他の人を大切にできるようになれば、世の中の差別はなくなりていくことでしょう。

このように、「差別」をなくすために自分にできること、それは、毎日の生活の中にたくさんあるのです。

川内田の北向で川内田橋の袂に石造の地蔵の室がありま

す。但し火輪残欠が前提での話です。

川内田観音堂の境内にかつて「担め石」と呼ばれる村の青年が力競べをした、径五十歩と四十歩の丸石が転がります。

益城町教育委員会

火輪そつくりです。室の製作当时一軒として作られたのなら外れですが、若しこれが五輪塔残欠の火輪で地蔵の室に転用されたと仮定して論を進める、火輪の下縁が一十五八歩あり、それから地輪水輪の比率を推算復元すると、かつては内寺にあり今は西原村に移転された、県下最大の五輪塔「虎ヶ塔」と匹敵する巨大な五輪塔だと推定されます。

筆者は金石文の方面に疎いので専門家の検討があれば幸甚です。

川内田の観音堂（北福寺・本尊千手觀音）は福田寺の末寺で、福田寺の孫寺ですが、福田寺は北条氏の支配から戦国時代には阿蘇西巖殿寺に支配されたと見られ、御船町の間所にジャスドン（座主殿）の微少地名がありこれを西巖殿寺が派遣した福田寺管理者の屋敷地名とすれば、川内田は間所から福田寺への直通道になるので、この五輪塔があつたとなれば川内田と西巖殿寺の関係の研究に発展しま

す。

可愛い七つの子があるからよ

可愛い愛と啼くんだよ

山の古巣に行つて見て御覽

丸い眼をしたいい子だよ

鳥なぜ啼くの 鳥は山に

可愛い七つの子があるからよ

可愛い愛と啼くんだよ

山の古巣に行つて見て御覽

丸い眼をしたいい子だよ

鳥なぜ啼くの 鳟は山に

可愛い七つの子があるからよ

可愛い愛と啼くんだよ

山の古巣に行つて見て御覽

丸い眼